

2023年4月24日

パルシステム東京様「平和カンパ 2022年度 年次活動報告書」

生活協同組合パルシステム東京様の平和カンパにより、昨年に引き続き、タイ・ミャンマー(ビルマ)国境沿いにあるメラ難民キャンプ第1図書館、第5図書館でのノンフォーマル教育事業を支援することができました。難民の心に寄り添うコミュニティ図書館へのご支援を、誠にありがとうございました。

●事業概要●

事業対象地：タイ国境 7カ所のミャンマー(ビルマ) 難民キャンプ

事業名：ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業

対象者：2022年度図書館利用者 延べ3,030人(第1図書館) 延べ10,963人(第5図書館)



●難民キャンプを取り巻く現状●



(授業を終えて家路につく高校生たち)

タイ国境にある9カ所のミャンマー(ビルマ) 難民キャンプには、現在約9万1千人が暮らしています(出典:UNHCR Thailand)。2016年からタイ政府・ミャンマー政府の合意の下で帰還プログラムが開始され、2019年7月までに約1,040人がミャンマー側へ帰還しました。しかし、新型コロナウイルス(以下、コロナ)の国際的な感染拡大により帰還は延期され、さらに2021年2月にミャンマー国内でクーデターが発生したことで、先行きが不透明となりました。近年、難民キャンプ内への支援は減少し続け、国際NGOの事業縮小や撤退が相次ぎ、難民キャンプでの今後の暮らしに不安を持つ人々が増えています。唯一の帰還先であったミャンマー国内の情勢が不安定となり、キャンプ住民の不安はさらに高まっています。将来への不安をできる限り取り除けるよう、継続した支援が求められています。現在、コロナの感染状況は落ち着いており、行動制限も解除され、子どもたちが学校や図書館に元気に通う姿が見られるようになりました。

●事業目標と実施した活動●

事業目標
カレン難民委員会教育部会との協働により、コミュニティ図書館活動を通して難民キャンプの住民が将来の選択に向けた知識、情報を得る。
活動内容
<p>タイ国境の難民キャンプ(9 か所)の中で最大規模のメラ難民キャンプには、2022 年 12 月末時点で約 34,000 人が生活しています。コロナの状況が落ち着き、現在は通常通り図書館を開館しています。</p> <p>① <u>コミュニティ図書館活動</u>：子ども用の絵本や大人用の新聞、学習参考書、小説などを図書館に配架しました。図書館では図書の貸出以外に、読み聞かせ、歌、ゲーム、塗り絵、折り紙など様々な活動を実施しています。2022 年の図書館利用者数は 3,030 人（第 1 図書館）、10,963 人（第 5 図書館）で、昨年より増加しています。</p> <p>② <u>定例会議の実施</u>：図書館関係者を集めて 4 回（1 月、3 月、6 月、9 月）の会議を開催しました（月平均の参加者：約 15 人）。会議では、活動の計画や進捗状況、課題等について話し合いました。</p> <p>③ <u>情報提供活動</u>：図書館外に設置している情報掲示板および図書館内に設置しているパソコンを通じて、キャンプ内の生活および今後の帰還に関する最新情報や新着図書について発信しています。メラ難民キャンプに設置しているパソコンは、年間で延べ 605 人が利用しました。</p> <p>④ <u>学校への移動図書箱活動</u>：メラ難民キャンプ内のすべての学校、国際 NGO の事務所などを対象に移動図書箱活動を実施し、図書館の蔵書の中から教員や学生が選んだ図書を箱に詰めて長期間貸し出しました。2022 年には 2,638 冊の本がこの活動によって貸し出され、授業や自習等に活用されました。</p>

ノー・シンナディーさん（13 歳 メラ難民キャンプ図書館利用者）



私の家族は 7 人で、叔母と従妹と一緒に暮らしています。私の両親はミャンマーにいます。家では叔母の手伝いをして、花に水をやったり、家の中を掃除したりします。時間があるときは、本を読んだり、友だちと遊んだりするのが好きです。友達と縄跳びをするのも大好きです。学校に行くのが好きで、一番好きな科目は英語です。

毎日放課後と土曜日に図書館に通っています。絵本を読んだり、絵を描いたり、ゲームをしたりできるので、図書館に来るのが大好きです。特にゲームをして友達と一緒に過ごすのがとても楽しいです。好きな絵本は『いっすんぼうし』です。ストーリーが楽しくて、幸せな気分になるし、素敵な言葉も学べるからです。一寸法師は小さな男の子ですが、大きな心を持っていて、賢くて勇敢な人です。私もいつか彼のような勇敢な人になりたいです。

絵本：

『いっすんぼうし』

(福音館書店)

私たちを継続的に支援してくださる日本の皆様に感謝します。皆様のご支援があるからこそ、難民キャンプでのこのような図書館活動ができるのだと思います。本当にありがとうございます。